「健康年齢」指標を提供

健診データ活用で機能強化

ユニケ

JMDC子会社のユニケソフトウェアリサーチ（ユニケ）は、保険薬局向けに自身の健康状態を分かりやすく理解するための科学的根拠に基づいた指標「健康年齢」の提供を開始した。

保険薬局では健康サポート薬局制度など、処方箋調剤にとどまらず、地域の健康維持や増進のための取り組み支援も評価されており、薬剤師のみならず、栄養士による栄養指導、健康に関わる相談会、診察・健診の受診勧奨など積極的に実施している。

これに加え、10月から本格運用が始まったオンライン資格確認制度において、保険薬局で患者の特定健診情報の参照が可能となった。これにより、従来以上にデータ、情報を取り扱えるようになり、これらを活用した薬局機能の強化が期待されている。

「健康年齢」は、JMDCが保有する160万人の匿名化された健診データと医療費をもとにモデルを開発。地域の健康サポートや健康増進など、医療現場の様々な取り組みで利用されている。

具体的に、実年齢・性別に加え、一般的な検査項目12項目の数値を使用して算出され、健康指標を年齢で表すことで直感的に自身の健康状態を把握することができる。

同サービスでは、「健康年齢」ポータルサイトの利用アカウントを付与し、電子薬歴などのパソコン端末で検査項目を入力することで、「健康年齢」レポートをアウトプットする。

このレポートを、薬局で行う健康サポート業務と合わせて活用することで、科学的根拠に基づいたより細かな支援を実現して、地域住民の日常生活や生活習慣病予防、受診などの意識・行動変容につなげる役割を果たす。

同レポートに関しては、入力した検査項目をもとにした年齢を示すだけでなく、検査項目ごとに同性、同年代との数値比較が可能となっており、患者自身がどの程度の位置にいるかを表示する。他の患者との比較により、自らの健診結果に対する捉え方の意識変容を促す。

また、検査項目ごとに改善アドバイスと目標数値が表示される。目標数値は同性、同世代で、同レベルの値の中から1年間で改善した実績の割合を使用した目標を生成しているため、現実的に改善可能な目標を計算する。

ユニケは、保険薬局向けにレセコン、電子薬歴のソリューションを通して、薬剤師の対人業務の効率化を支援してきたが、保険薬局に期待されている地域の健康増進としての機能強化を果たすため、ICTを通じて新しいヘルスケアのあり方を発信していく。